

Daitoku-ji Temple
だいとくじ
大徳寺
ほうじょう げんかん
方丈及び玄関ほか3棟

京都市北区
方丈 | 江戸時代 寛永12年(1635)
玄関・廊下・庫裏 附 廊下
| 江戸時代 寛永13年頃(1636頃)
仏殿 | 江戸時代 寛文5年(1665)
事業期間：令和2年11月～令和8年10月(予定)



方丈 修理前 外観

方丈 国宝 《修理中》

大徳寺は、臨済宗大徳寺派の大本山で龍宝山と号します。鎌倉時代に大燈国師(宗峰妙超)が洛北紫野に結んだ大徳庵を始まりとします。桃山時代から江戸時代にかけては多くの有力者の支持を得て、茶の湯の文化とともに繁栄しました。明治維新後は最盛期に比べ規模を縮小しましたが、本山の禅宗伽藍の周囲に2つの別院と22の塔頭が広がる景観を今日も伝え、国宝・重要文化財の建造物や美術工芸品、特別名勝・名勝の庭園を多数有します。

方丈は伽藍の最も奥に位置します。住宅に近い形式の建物で、本来住持の住まいとして用いられるものでしたが、後に接待や行事の場としても使用されてきました。現在の建物は、大燈国師三百年忌に伽藍が整備されることに併せて、寛永12年(1635)に、大徳寺156世江月宗玩が勧進し京都の豪商後藤益勝の援助により建てられました。桁行29・8メートル、梁間17・0メートル、入母屋造、棧瓦葺(二部檜皮葺)の建物で、南を正面と



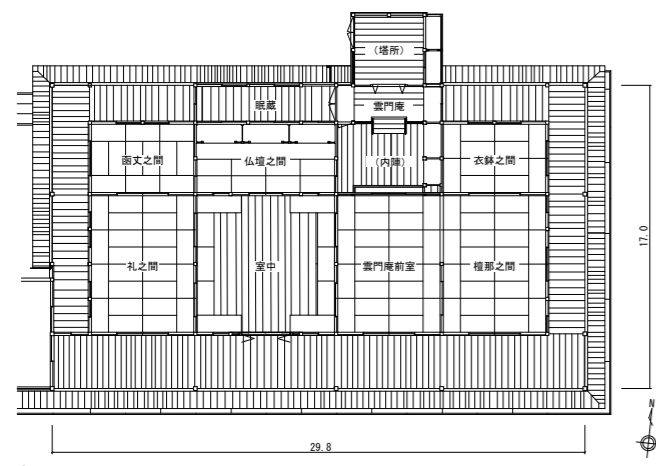
方丈 小屋組の組立状況

します。平面は通常の方丈より2室多い前後4室の八間取形式で構成されており、そのうち1室を、大燈国師を祀る「雲門庵」とし、一部を北側に突出させます。内部は一部を除いて畳敷とし、各室境には、狩野探幽によって描かれた障壁画(重要文化財)が入ります。また、南面と東面には庭園(特別名勝)を設けます。

と考えられますが、明治17年(1884)頃に棧瓦葺に改められました。修理前は長期にわたる瓦の荷重により建物全体が傾き、特に正面の柱が大きく傾斜していました。また軒桁が柱から落ちかけている危険な箇所もありました。修理では正面の軒桁を解体し、柱の建て起こしを行いました。令和5年度からは、小屋組を組み立て、柱が再び倒れないようにする対策と耐震補強を併せて行います。その他に、雨漏りや虫害で腐朽した木部、経年で劣化した建具や畳床などの補修も行います。

修理の内容
今回の修理は半解体修理で、昭和7年(1932)以来の根本的な修理です。建立当初の屋根は檜皮葺であった

と併せて行います。令和5年度は、室内来迎壁後面の障壁画のクリーニングを行う予定です。



方丈 平面図



方丈 内部の解体状況



玄関 瓦を降ろした状況



仏殿 屋根葺替完了の状況

げんかん 国宝 / 廊下・庫裏 重文 《修理中》
附 廊下・仏殿

修理の内容

方丈の周囲には玄関、廊下、庫裏附廊下が建ちます。いずれも方丈が建立された翌年の寛永13年(1636)頃に建てられました。仏殿は入母屋造、本瓦葺の建物で、周囲に裳階を付けます。伽藍の主要な建物としては最も新しく、寛文5年(1665)に建てられました。いずれも前回の修理は方丈と同じ昭和7年(1932)頃です。

玄関・廊下・庫裏附廊下は、棧瓦葺屋根に破損や劣化が見られ、雨漏りが生じていることから、瓦の葺き替えを行います。また、雨染みや経年劣化の見られる壁や木部も解体し、補修を行います。仏殿は近年、葺土の流出による瓦のずれが見られるようになったことから、本屋の屋根葺替を行いました。また、内外で亀裂が見られた漆喰壁は塗替を行いました。令和5年度は、室内来迎壁後面の障壁画のクリーニングを行う予定です。